



## ご挨拶

日本小児はり学会 会長 井上悦子

2019年が明けました。平成の元号は本年4月30日で終わり、5月1日から新しい年号に変わります。新たな歴史が始まろうとしています。小児はりの普及と発展を願い、引き続き、会員の皆さまの日本小児はり学会へのご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

昨年は、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催予定でありました第12回学術集会が台風のため、止む無く中止せざるを得なくなり、参加を期待していただいた多くの皆さまには、申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。また開催に向けて準備にご奔走いただきました杉山幸子先生、浜野浩一先生はじめ大師流小児はりの会関東支部の先生方に心より感謝申し上げます。

そして、学術集会で楽しみにしておりました東京都健康長寿医療センター研究所の堀田晴美先生の特別講演も残念ながら拝聴することが叶いませんでしたが、その「微小刺激の効果とそのしくみ」と題するご講演内容を先生のご好意により本会報に掲載させていただくことができました。

堀田晴美先生のご研究の成果は第12回学術集会開催に代えさせていただけるほどの貴重な情報であると確信しております。

一方、昨年は4月に専門性向上セミナーでアトピー性皮膚炎を取り上げ、11月には、茨木市で開催いたしました第46回日本伝統鍼灸学会学術大会で、私が「会頭講演 小児はりのすすめ」を公開講演させていただき、会場では一般市民の親子200名近くの方に谷岡賢徳先生はじめ、会員の先生方による小児はりを体験していただくことができました。小児はりの普及に日本小児はり学会として一役を買うことができたと思っております。

そして来る2019年4月7日には、昨年に引き続き専門性向上セミナーとして「発達障害」を取り上げます。多くの会員の皆さまのご参加をお待ちしております。また、今年こそは、学術集会を無事に開催できるよう、台風シーズンを外して10月下旬開催を予定し、準備を進めております。

小児はりの普及活動とともに、小児はりのエビデンスを創出していく活動も地道に続けていきたいと思っております。

会員の皆さまの益々のご健勝とご活躍をお祈りし、日本小児はり学会発展に向けて一層のご鞭撻、ご支援をお願い申し上げます。